

- 1 日時
平成 29 年 11 月 22 日（水） 18:00 ~ 20:30
- 2 場所
並木コミュニティハウス
- 3 参加者 43 名
(地域側)
連合自治会、地区社協、高齢者ボランティアグループ 31 名
(局・区役所、支援チーム)
区役所 4 名
地域支援チーム 22 名

1 あいさつ
金沢シーサイドタウン地区社会福祉協議会 会長 増田 一行

2 地域課題の解決に向けた地域の取組と区の支援について
金沢区役所 区長 國原 章弘氏

3 出席者紹介(名簿参照)

4 報告事項
春期地区推進連絡会の議論内容(三輪事務局長)

5 意見交換
地域の方々と支援チームが 3 グループに分かれ、下記のテーマを 3 つの視点から意見交換し、グループごとに発表した。グループは、1 丁目・2 丁目・3 丁目で話し合った。意見交換前に富岡東地域ケアプラザの金山所長から、「シーサイド地区の高齢者を取りまく現状」の説明があった。

〈テーマ：高齢者を地域で支える〉

- (1) 高齢者について地域で気になること
- (2) 現在の取組と課題
- (3) 今後、自治会や各団体で更に工夫できること

(1) 高齢者について地域で気になること

- ・地域内に老老介護・高齢と障害者の方の世帯が増えている。
- ・バス便が少ない／シーサイドラインの駅がバリアフリーの環境になっていないなど健康的な楽しみとなる外出を妨げる状況があり、閉じこもりになりやすい。
- ・地域内の集まりに参加する人が固定された雰囲気の中に、新規参入することが難しくなっている。また、「集いの場所」の会場を確保することも難しい。
- ・周辺で気になることや気になった人がいても近所づきあいが希薄で声をかけにくい、相手からも遠慮されてしまって結局何もできない。
- ・階段の昇降が大変という相談が増えており、ゴミ出しや外出が困難な状況がある。
- ・表札や訃報の掲示がないなど、近所づきあいが乏しくなっている。

- ・孤独死があった。

(2) 現在の取組と課題

<取組>

- ・防災対策の一環として、全世帯対象の人員点呼を年2回実施している所は多い。
- ・自治会内でゴミ出し支援を行っているところもある。
- ・自治会内で、家事支援、助け合い活動、多世代交流などを行っているが、なかなか利用がない。
- ・自治会によっては運動や健康マージャン、歌手の招待など様々な催しを行っている。
- ・催事の案内チラシを、スーパーなどの大勢が立ち寄るようなところに貼って、周知を図っているというところもある。

<課題>

- ・参加者が固定されやすく、新規の方が参加しにくい。
- ・集会所が少なかったり、狭かったりと場所の確保が大変。賃貸住宅では、会場費が有料である。
- ・関わりを拒否されるケースが多い。
- ・男性の参加者が少ない。
- ・次の担い手である若い世代が少ない。子育てサークルの財政支援がなくなるという話もあり、サークル活動が継続しにくくなる。

(3) 今後、自治会や各団体で更に工夫できること

- ・多種多様な催しを開催するなど、集まる機会を多く提供する。
- ・「自治会の良さ」をアピールして加入を勧める。
- ・自治会と管理組合の連携強化を図る。
- ・災害や防犯対策をきっかけに、日ごろの近所付き合いや友人関係を深めていく。
- ・声掛けをする際、声掛けする側も声をかけられる側も、同じ立ち位置で話をするのを忘れない。
- ・孤立しているような人への声掛けは、断られても根気強く行っていく。
- ・大事になってからではなく、元気なうちからケアプラザなどつながってほしい。
- ・元気に過ごせるよう、簡単な体操などを楽しく継続できるような集まりを提供する。
- ・街の高齢化率を下げるには、若い世代の転入が重要である。子育てしやすい環境作りや、外部に向けて、そういった取り組みを周知していくことも大事である。

★今回の話合いで出された意見を精査し、今後よく話し合った上で、どうすれば実現できるかを見極め、できることから実行していきたい。

6 閉会のあいさつ

金沢シーサイドタウン地区社会福祉協議会 副会長 金沢 政行